

郡上市消防団員募集中!!

～あなたの力が地域を守る～



消防団とは

消防団は消防本部・消防署と同様に市町村の消防機関です。「自らの地域は自らで守る」という精神に基づき、普段はさまざまな仕事に就いている住民が非常勤特別職の地方公務員として災害などに対応します。

地域を守る

◆災害時の活動

火災が発生すると、消防職員と協力して消火活動や近隣住民の安全確保、周辺の交通整理を行います。消防職員よりも先に到着することもあるため、消火活動や後方支援などその場に応じて活動します。

◆救助活動

災害が起きたときは、地域を知り尽くした消防団の救助活動は大きな力になります。大規模災害時には、発生直後から地域と連携し、救助活動や避難誘導を行います。

◆水防活動

豪雨等の際には、河川等の警戒、土のう積みなどの防災活動を行います。また、消防職員と協力して住民の避難や救助を行い、災害復旧作業も支援します。

◆平常時の活動

◆消防・防災訓練

火災等の災害を想定した訓練を行うほか、各地域のイベント等に積極的に協力しています。

◆防火啓発活動

地域を災害から守るために防火意識の向上が必要です。そのため、地域内巡回や防災訓練時の住民への指導などを行います。

向上が必要です。そのため、地域内巡回や防災訓練時の住民への指導などを行います。
教育・訓練

災害活動には、専門的な知識と技術が必要なため、訓練を受けます。習得後も災害対応力を高めるため、定期的に消防職員と訓練を行っています。

入団条件・待遇・報酬

◆条件

18歳以上

◆待遇

活動に必要な被服の貸与

◆報酬

(5年以上の勤務で退職金を支給)
年間報酬 団員 36,500円

◆報酬

出動報酬 1日 3,000円

◆報酬

災害活動 4時間まで 4,000円

活動4時間超え 8,000円

◆報酬

訓練報酬

1日 3,000円

◆報酬

公務災害補償加入

◆報酬

退職報償金制度



消防本部
インスタグラム



消防本部
フェイスブック

3/1(土)
～7(金)

春の 全国火災予防運動



この季節は、空気が大変乾燥し火災の発生しやすい時期となります。火の取扱いには十分注意して、火災の発生を防ぎましょう。

◆令和6年度全国統一防火標語◆ 「守りたい 未来があるから 火の用心」

た。
火災による負傷者は5人でし
2件の増加となりました。また、
令和5年と比べ、
件の順となり、令和5年と比べ、
火災による負傷者は5人でし
た。

市内における、令和6年の
火災件数は20件

「建物火災」が最も多く8件、

続いて「その他火災」7件、「林

野火災」3件、「車両火災」2

件の順となり、令和5年と比べ、

火災による負傷者は5人でし

これは、おおよそ1日あたり
106件、約14分ごとに1件の
火災が全国のどこかで発生して
いることになります。

火災の種別は
「建物火災」が最も多く、続
いて枯草火災などの「その他火
災」「車両火災」「林野火災」の
順となりました。

出火の原因は
「たばこ」が最も多く、続
いて「たき火」「こんろ」の順と
なっています。



住宅用火災警報器で
困ったときは？



火災に早く気づき、早く避難するためにも、住宅用火災警報器を設置しましょう。
また、すでに設置されているお宅は、点検と維持管理をお願いいたします。

全国の火災発生状況

総務省消防庁の統計によると
令和5年の全国での火災件数は
38,672件でした。

屋外での火災に注意！

これから季節は、空気が乾燥し、屋外での火の取扱いによる枯草火災が発生する危険性が高くなり、少しの不注意で火災となることがあります。一人ひとりが注意することで十分防ぐことができます。

燃えやすい物の近くで火を使わない

枯草などの近くで火を使わないと、火災になる危険性が高くなります。タバコの投げ捨ては絶対にしないでください。

空気が乾燥し、風の強いときは

周囲の枯草などに飛火しやすく、燃え広がる可能性も高いた

め、火を使うことは止めましょう。

火の取扱い中は、絶対にその場を離れない

火の取扱い中は、絶対にその場を離れないようにし、確実に消火しましょう。



問 郡上市消防本部予防課

67
・
1
2
1
9

岐阜県山火事予防運動 ~ふるさとの山を守ろう 火の手から~ (山火事予防統一標語)

これらの季節は、林野火災や枯草火災が発生しやすい気象状況となります。

また、一度林野火災が発生すると被害が大きくなりやすく、貴重な森林を消失させ、その回復には多くの費用と時間がかかります。

郡上市の多くを占める森林は、自然環境の保全、土砂災害や洪水被害の防止、木材の供給といった私たちの生活に重要な役割を果たしています。

かけがえのない森林を守るために、一人ひとりが火の取扱いには十分注意して山火事を防ぎましょう。

